

会長就任のご挨拶

社団法人 日本金属学会第59代会長 三 島 良 直

このたび、皆様方からのご推挙により、日本金属学会の会長を仰せつかることになりました。身に余る光栄に存じますが、同時に責任の重大さに身の引き締まる思いでおります。丸山公一、中嶋英雄、津崎兼彰の各副会長をはじめ、梶原専務理事、理事、評議員、会員、事務局各位のお力添えをいただきながら2年後に75周年を迎える伝統ある本会、そしてわが国の材料分野の発展のために微力ながら全力を尽くす所存でございますので皆様のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



さて、今年度が最終年度となる第3期科学技術基本計画では、重点推進4分野として、情報通信、ナノテクノロジー・材料、環境、そしてライフサイエンスが挙げられて研究費の重点配分が実施されてきました。材料分野はそもそもこれら重点推進分野のすべてに関わっており、本会の分科会の構成をみてもそのことは明らかです。実際にこの間、構造用材料を主とした社会基盤材料分野と光・電気・磁気特性等の種々の機能性材料分野において多くの成果を挙げたことに加えて、近年特に希少資源の代替と元素の有効利用のための元素戦略に関連した研究分野が社会から注目を浴びるに至って、本会の役割はさらに重要となっています。一方、平成23年度から始まる第4期科学技術基本計画については、昨年10月より内閣府総合科学技術会議の基本政策専門調査会において議論が開始され、昨年12月に政府が発表した「新成長戦略」を踏まえつつ、今年2月に「第4期科学技術基本計画骨子(案)」が公表されるに至っています。この中では、グリーンイノベーションとライフイノベーションの2大イノベーションが国家戦略の柱と位置づけられています。さらに、国家を支え新たな強みを生むプラットフォームとして科学・技術が位置づけられ、イノベーションと一体化した推進・強化が謳われています。基本的な考え方としてわが国が強みを持つ革新的な技術シーズを強化するという点では第3期と同様の考え方であるものの、一方で2大イノベーションへの対応として政策課題の解決や社会ニーズへの対応をより強く意識した研究開発が重要視されることになるようです。本会はこのようなわが国の科学技術政策としての要請に如何に対応していくかについて、これまでと同様材料系学協会の中でのリーダーシップを発揮し、材料分野の重要性をアピールするとともに材料研究者・技術者の存在感を強化する役割を果たしていくべきであると考えます。

以下に本年度の主な活動目標について述べます。基本的には加藤雅治前会長の下で鋭意進めてこられた施策について、その成果を踏まえてさらに進めていく所存です。

1. 公益法人制度改革による公益社団法人への移行のための運営および事業の見直し

本会はすでに公益認定申請の事前準備として新しい法令に適合した定款変更の案を文部科学省に提出し、現在指摘事項に順次対応しているところです。事業の再編や規程の見直しおよび運営の改善など定款変更を伴わない要件については順次計画的に推進しております。

2. 第4期科学技術基本計画への対応

上述した第4期科学技術基本計画への対応については、いわば「材料分野」の命運を賭けて、本会の戦略推進委員会、分科会委員会、そして材料系学協会、産および官(オブザーバー)によって組織する材料戦略委員会において、内閣府総合科学技術会議、文部科学省、経済産業省等と連絡をとりつつ、政策立案における材料系分野の重要性を主張し、必要な提言をします。皆様との全面的なご支援とご協力をお願いいたします。

3. 平成25年度に実施が予定される科学研究費補助金制度大改正への対応

10年毎に見直される科学研究費補助金制度の大改正に向け文部科学省および日本学術振興会で検討が進められています。新しい科研費の仕組みのなかで、本会会員が最も関心があるのは、系、分野、分科、細目の大改正であろうと思います。原案を作成する日本学術振興会における検討状況に注目し、科研費委員会を中心に必要な体制を設置し、関係学協会とも緊密に連携して対応いたします。

4. 国内外の学協会との連携

国内では日本鉄鋼協会との連携はもとより、材料連合協議会や材料戦略委員会、欧文誌の共同編集委員会等の活動を通して材料系学協会による連携を強化します。また国外では国際連携組織である International Organization of Materials, Metals & Minerals Societies (IOMMMS) との連携事業の推進、2国間交流では TMS との若手研究者 net working や大韓金属・材料学会との共同シンポジウムの継続さらには中国金属学会との交流を強化します。本会が共同主催で8月にオーストラリア、ケアンズ市で PRICM 7 を開催し、本会主催で6月に志摩市で JIMIC7 を開催いたしますので、よろしくご参加をお願いいたします。

5. 2011年秋期講演大会の沖縄開催と講演大会のあり方の試行

本会の講演大会の活性化および講演大会運営の困難化に抜本的に対応するため、2011年秋期講演大会で新しい講演大会のあり方を試行することといたしました。大括りセッションの導入、シンポジウムの充実、基調講演の拡充、ポスターセッション促進などを検討中です。魅力ある開催場所として沖縄コンベンションセンターを選定しました。ぜひこの新しい講演大会にご参加のほどお願いいたします。

これらの活動によって、本会の事業が益々盛んになり、「材料立国」を実現して材料が社会に貢献できるよう、努力してまいります。会員各位ならびに事務局各位のご理解とご協力のほどを、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2010年4月